

マッサージでできること⑬ ～症例を参考に～

【連絡ノートで多職種連携】

脳梗塞の後遺症が残る A さん(30代女性)は、訪問マッサージ以外にも様々なサービスを利用しておられます。

日々移り変わる訴えやご希望に対応するために、担当者会議で課題や目標の共有をするだけでなく、日々おこなったりハビリやマッサージ等のケアについて、連絡ノートで連携を図ることになりました。

このような活動は、多職種間での連携がスムーズになるだけでなく、ご本人やご家族へも「安心感」を与えることができ、現在も充実したサポートが続いております。



(こぼり治療院 神林)

季節のコラム

お日様に当たること、大事ですね。

私は、

- ・年を取ってくると身体の陽気が失われていく
- ・赤ちゃんは陽気の塊、だから「赤」ちゃんと言う
- ・身体の陽気を補うには、陽気の象徴である

太陽に会うことが必要

そういった話をすることがあります。



(成島治療院 成島)

◆訪問医療マッサージを考える会つば

つば市内での在宅における訪問医療マッサージの現状を少しでも改善させ、利用者やその家族に喜ばれるよう、市内のマッサージ師(鍼灸師も含む)有志で 2015 年に結成しました。

(2017年5月現在、マッサージ師8名、鍼灸師8名所属)

事務局：こぼり治療院

☎ 029-869-9979

◆ホームページ随時更新中！

<http://medical-massage-at-home.com>



マッサージ師とは？ ～ボランティア活動を通して～

2016年8月、熊本地震の被災地へマッサージのボランティアに伺いました。今まで南相馬、釜石、常総といった被災地へもマッサージのボランティアに伺いましたが、今回の熊本では、マッサージ以外の活動が特徴的だったこともあり、この時に感じたあん摩マッサージ指圧師としてのあるべき姿のようなものをお伝えしたいと思います。



【マッサージ以外の活動】

①児童たちとの交流

益城町にある小学校で、体育館が避難所になっていました。体育館にて被災者へのマッサージを終えた後、視聴覚室に移動して40名ほどの児童たちとクイズ大会やピアノ演奏、だるまさんが転んだ等と一緒に楽しみました。

②他大学の学生との交流

同じ小学校で児童への学習支援ボランティアを行っている鶴見大学(神奈川県)、福岡看護大学の学生と交流をして、わずかな時間ながら自己紹介やお互いの活動内容を伝え合いました。前述の児童との交流会でも、お手伝いを買って出て一緒に会を盛り上げてくれました。



【熊本ボランティアで得た感覚】

今までの被災地ボランティアとは異なり、若い世代や横とのつながりを増やすことで「避難所全体としての治療効果」を多少なりとも得られたような気がしました。そして、この感覚は普段の臨床現場でも我々にはきっと必要であろうことと思います。つまり、マッサージ師は専門分野以外でも自分たちに何ができるのかを模索し続け、「全体としての治療効果」を常に意識するべきだと痛感したのです。

(IGNIS 治療院 上杉)

最後までお読み頂き、ありがとうございます。
当会や在宅医療マッサージについて、
ご興味・ご関心をお持ち頂きましたら幸いです。